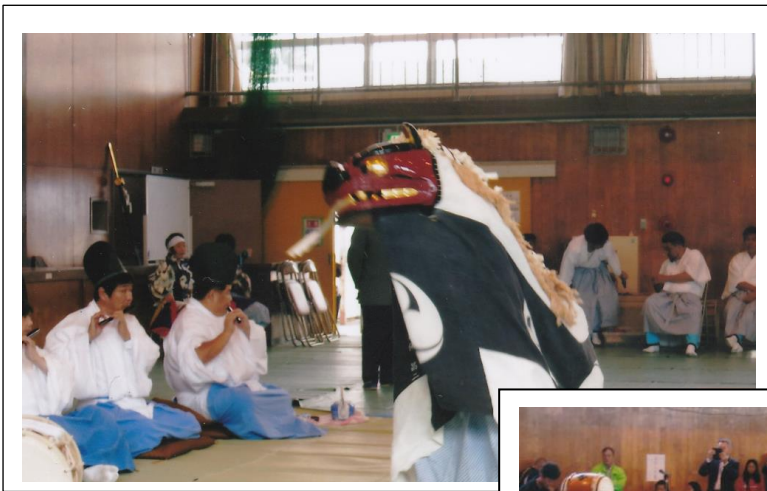


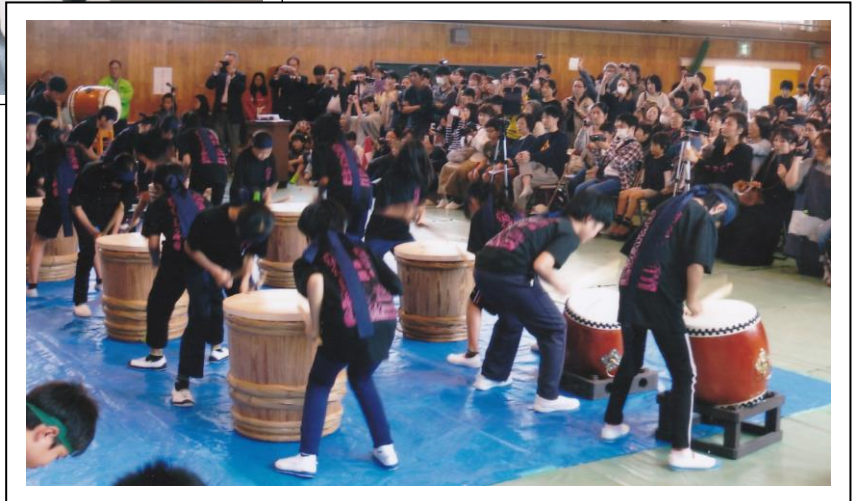
# 若松地区地域計画

大黒屋光太夫の偉業を受け継ぎ

明るく連帯感のある、豊かで住みよい まちづくりを進める



獅子舞（濱田獅子舞の会）



光太夫太鼓（若松小学校五年生）



2020年4月

若松地域づくり協議会

## 目 次

会長挨拶 地域計画策定の趣旨について	1
はじめに	1
（１）計画の期間	1
（２）策定体制	2
1. 若松校区はこんな地域 ～現状と宝物・課題～	
（１）若松地区の概要	2～5
大黒屋光太夫ゆかりの地「若松」 マップ図	6
（２）住民の意識（アンケートから見える若松地区）	7～10
（３）子どもの意見（子どもアンケートから見える若松地区）	11～13
（４）地域の宝物と課題 （アンケート，WS等の結果を基に部会で協議）	14～15
2. 地域づくりの基本目標	
○基本目標	16
3. まちづくりの基本方針と取り組み	
（１）基本方針	16
（２）事業計画（2020年～2023年） （別冊：2020年～2023年若松地区地域計画書参照）	16
（３）地域計画策定に至る主な経緯	17
地域計画策定委員	18

# 地域計画策定の趣旨について

若松地域づくり協議会

会長 原田 一男



鈴鹿市では、平成24年の鈴鹿市まちづくり基本条例に掲げた「市民それぞれがまちへの関心や愛着を持ち、お互いに尊重し、共に学び、人と人、地域と地域がつながり支え合う地域コミュニティ」を具現化することを目的に、平成31年4月に鈴鹿市地域づくり協議会条例を制定しました。

地域と行政が協働のパートナーとして連携し、明るく住みよい地域づくり目指して行動をおこすことを名実ともに方向付けました。

このような中で、私たち若松地域づくり協議会は、「大黒屋光太夫の偉業を受け継ぎ、明るく連帯感のある、豊かで住みよいまちづくり」を地域の目指すべき姿として、「若松地区地域計画」策定しました。

今回策定の「若松地区地域計画」を、若松地区の住民で共有化し、住民の総力により具体化に向けた行動をおこしていきたいと考えます。

役員が先頭に立って、元気で活力のある住みよいまち「若松地区」を創造するために住民主体の地域づくりに取り組みますので、皆さま方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

## はじめに

### (1) 計画の構成と期間

本計画は、若松地区の現状と魅力・宝物（長所）と課題（短所）、地域づくりの基本目標、部門別の基本方針と事業計画などで構成しています。

計画期間は、若松地区の将来像を実現するため4年間（2020年～2023年）とします。

ただし、事業年度ごとの活動の経過と地域を取り巻く状況の変化等に臨機応変な対応をしていくためにも、必要に応じて見直しを行うものとします。

## (2)策定体制

本計画は、地域づくり協議会会員と市担当支援職員が中心となって協働で原案を作成しました。

原案の策定に当たっては、市や町を取りまくマクロの状況や発足後の活動経過、住民アンケートの結果、若松小学校児童のアンケート結果、2回のワークショップの討議等を反映しながら作成いたしました。

その原案を部会（加盟組織の意見反映）役員会で検討・協議を重ね、補強補完して今回提案の地域計画を策定しました。

令和2年度の当会総会に策定しました地域計画（案）を提案し、承認を得て年度毎の事業計画に落とし込み具体化に努めていきます。

## 1. 若松小学校区はこんな地域 ～現状と宝物・課題～

### (1) 若松地区の概要

#### ■地区のなりたち

(鈴鹿市全体から見た位置と地勢)



(地区内の地図)



#### ■地名の由来

伊勢湾に接して海岸線は白砂青松が続く風光明媚な地であり、古来の歌（新古今和歌集、万葉集など）に詠まれている「若の松原」が町名の『若松』の由来とされています。

その名残が「千代崎海水浴場」「千代崎緑地公園」で見られ、海水浴場は現在でも伊勢湾最北端の適地として、夏場になると若者や家族連れで賑わっています。

## ■昔のまち並み



江戸時代の若松は亀山藩の飛地で、現在の金沢川下流に干潟があり鶴や渡り鳥が飛来する狩場で自然環境に恵まれた地でした。

また、若松小学校東側の海岸線には船着き場もあり対岸の常滑（大野湊）との間には定期便が通い、伊勢参りや京都詣での旅人が往来して船宿が10数軒軒を並べ賑ってもしました。しかし、安政の大地震（1853年～1854年）で若松海岸線が地盤沈下して湊の機能が失われ、明治23年には、三重県令によりま

の中心部（現在の高町東の地で字「畠中」「北浜」）にあった心海寺と隣接の民家10数軒が強制立ち退きとなり、若松小学校付近の山町に移住しました。

江戸時代の若松の区域は、現在の白子の江島、玉垣の岸岡、そして北若松、中若松、南若松で構成されていました。その後、江島は白子へ分離（明治22年、1889年）、岸岡は玉垣に分離（明治33年、1899年）され、現在の区域となりました。昭和17年（1942年）鈴鹿市制実施、昭和59年（1984年）の住居表示に伴って呼称も変わり現在の若松中・若松東・若松北・若松西になりました。

## ■光太夫の生誕地と顕彰活動

鎖国の時代にロシアに漂流し、奇跡的に10年の年月を得て帰国を果たした、日露国交の先駆者「大黒屋光太夫」が生まれた地です。光太夫生家の亀屋、養子縁組をした大黒屋も船着き場近く（現在の高町）にありました。

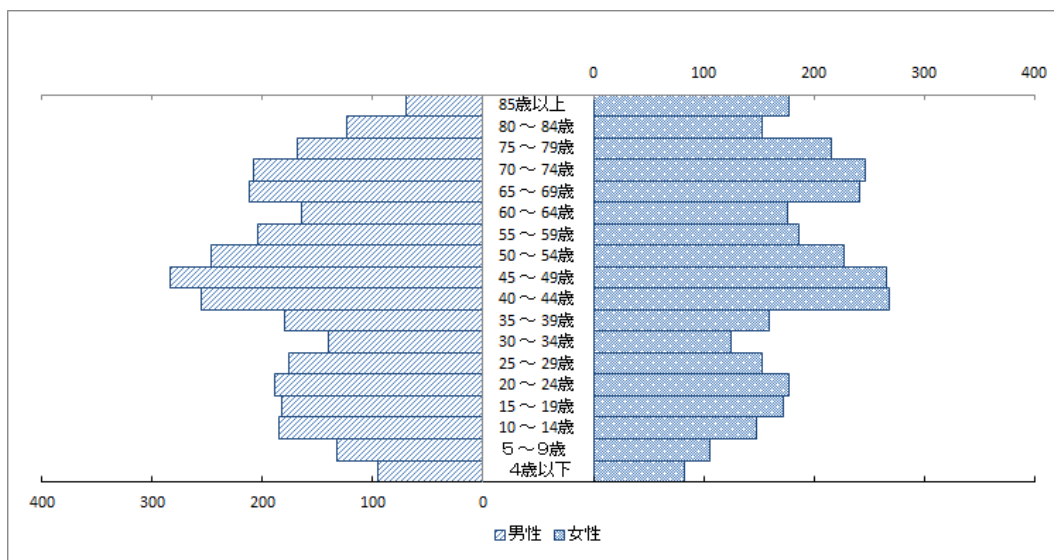
今から100年前の大正8年に当時の若松村の有志により光太夫の史実や偉業を後世に伝えようと、若松村の役場横（現在の若松小学校正門前）に顕彰碑「開国曙光」が建てられました。戦時中に顕彰活動が一時途絶えましたが、平成3年（1991年）に大黒屋光太夫顕彰会が発足して顕彰活動を継承しています。

古来から継がれている伝統文化、濱田・禰宜垣内地区の獅子舞、濱田のバッサ踊り高（海出山地蔵堂）西端（観音堂）の百万遍廻し、幾つかの地区で行われている盆踊り、山の神、湯の花神事などが地域住民の努力によって今日まで引き継がれています

## ■若松の産業

伊勢湾を漁場に穴子・ワタリガニ・小女子等が獲れる漁業と伊勢平野の一角にある農業の一次産業が中心で栄えてきました。また、二次産業では、きれいな豊かな水を使用した味噌・醤油・酒の醸造が昭和の中期ごろまでは盛んでしたが、大手の大量生産の波に押されて減りはじめ、現在は、清酒「作」「鈴鹿川」で有名な清水清三郎商店の酒造業一社を残すのみとなりました。

■若松地区の人口構成



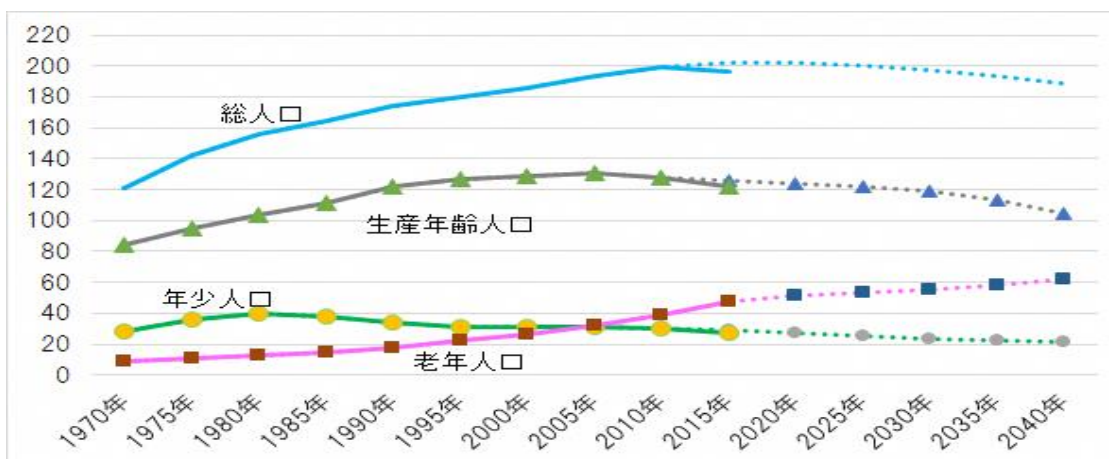
平成29年9月末 住民基本台帳

◇人口 6,501人 (男性 3,217人 女性 3,284人)

◇世帯数 2,759世帯

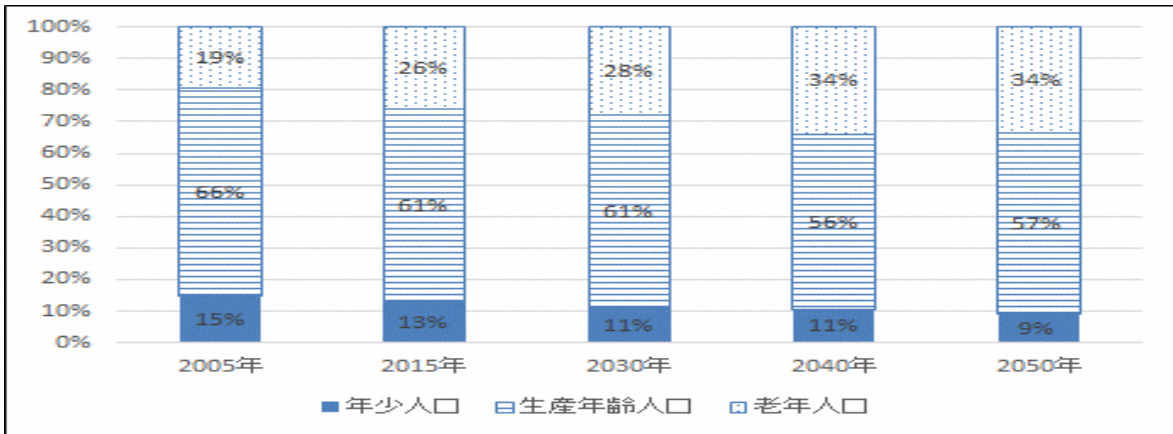
■人口推計

○市全体



※実線グラフは、2015年までの国勢調査結果による3区分人口。点線グラフは、2010年の国勢調査結果を基にした。社人研による2015年以降の将来推計人口より作成した3区分人口。

○若松地区



※2015年までは国勢調査結果による。

※2030年からは全国小地域別人口推計システム URL <http://arcgis/1LqC6qN>  
 (作成者 青山学院大学 井上孝 氏)

若松地区は、人口6,501人、世帯数2,759人で、年齢別人口をみると生産年齢人口は3,933人(60.5%)、年少人口は750人(11.5%)、老年人口は1,818人(28%)と年少と老年人口の比率は約30:70である。市の平均値と比較すると生産年齢人口の比率は2%低く、年少人口の比率も2%低い。よって高齢人口の比率が4%程度高い傾向にある。市の平均値比較では、年少人口・生産年齢人口の比率が若松地区は低く、老年人口比率が高くなっている。すなわち、高齢化が市平均値より進んでいると言える。  
 (平成29年9月末 住民基本台帳)

＝「大黒屋光太夫」ゆかりの地『若松』マップ図＝次頁＝

# 大黒屋光太夫ゆかりの地「若松」



浜田公園



宝祥寺

小市菩提寺  
小市供養碑

千代崎港緑地公園  
壁画・千代崎灯台

千代崎海水浴場  
2代目開国曙光碑



若松墓地

光太夫と乗組員供養碑  
光太夫生家の墓



大黒屋光太夫記念館

光太夫座像

若松小学校の校庭

伊勢若松駅



緑芳寺

光太夫生家菩提寺  
ロシア土産「箆言」  
1ルーブル銀貨



心海寺

磯吉菩提寺  
磯吉見聞録「極珍書」



光太夫ブロンズ像

駅前ロータリー

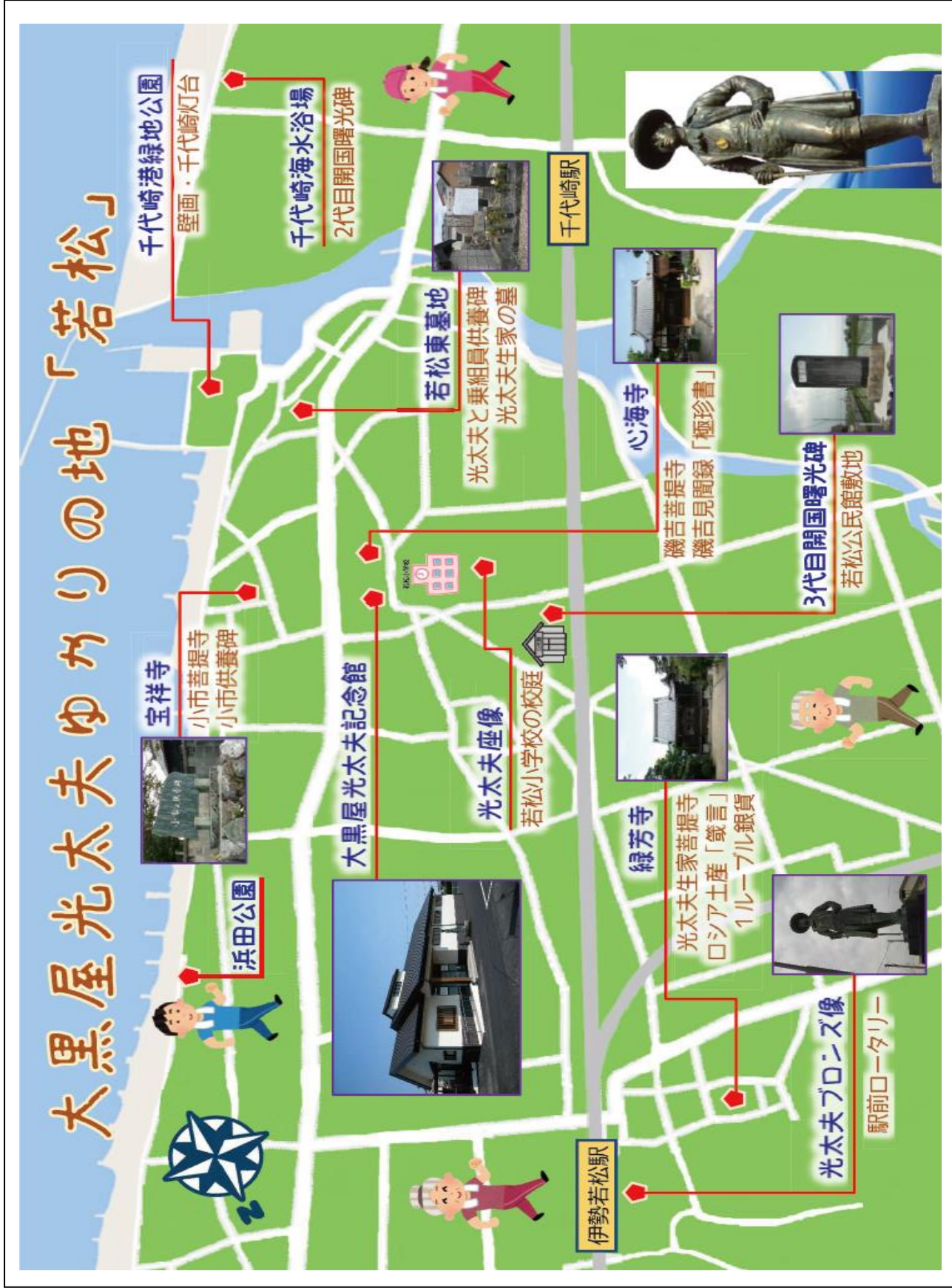


3代目開国曙光碑

若松公民館敷地



千代崎駅





## (2) 住民の意識（アンケートから見る若松地区の現状）

### ■実施方法

対象者 若松小学校区 20 自治会 2,296 世帯（自治会長を通じて配布）

調査時期 2018年9月

回収数 1,107 世帯（1,893 人）

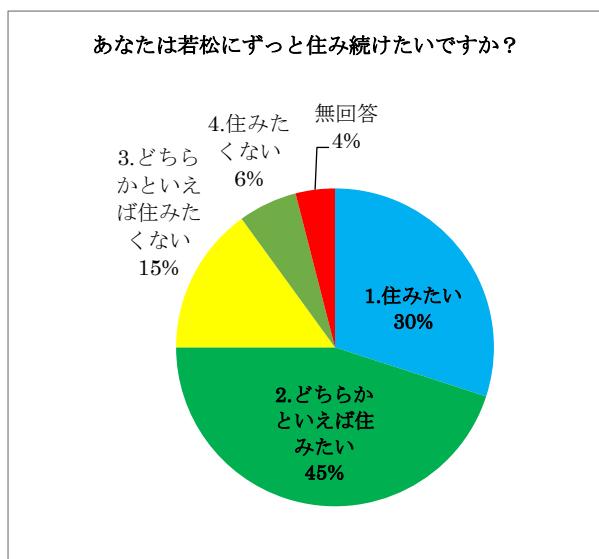
回収率 48.2%

### ■年代別アンケート協力者

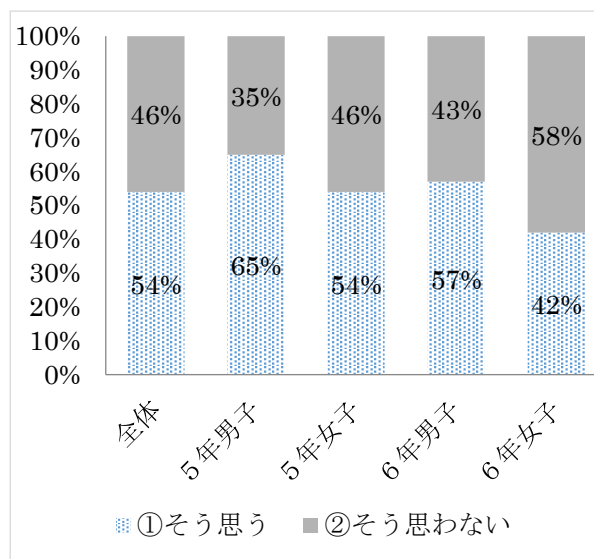
10代	3.4%	40代	15.3%	70代	21.5%
20代	3.5%	50代	16.3%	80代	7.9%
30代	7.1%	60代	20.2%	90代	0.7%
無回答	4.0%				

### ■定住意向

《地域住民》

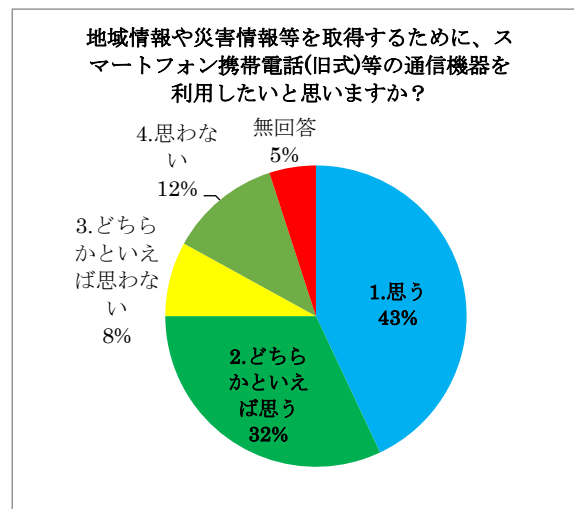
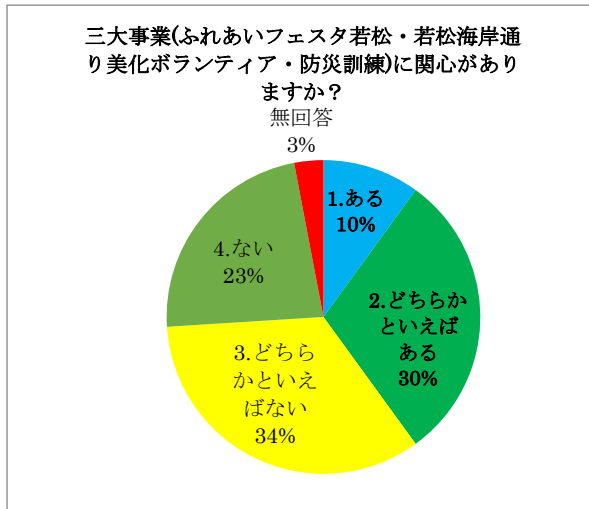


《若松小学校生徒》



◇「住みたい」「どちらかといえば住みたい」と答えた地域住民は75%となっています。一方で、小学生では、54%が住みたいと回答し、46%は住みたいとは思わないと回答しています。将来を担う子どもたちが、若松地区に住みたいと思える環境づくりを進める必要があります。

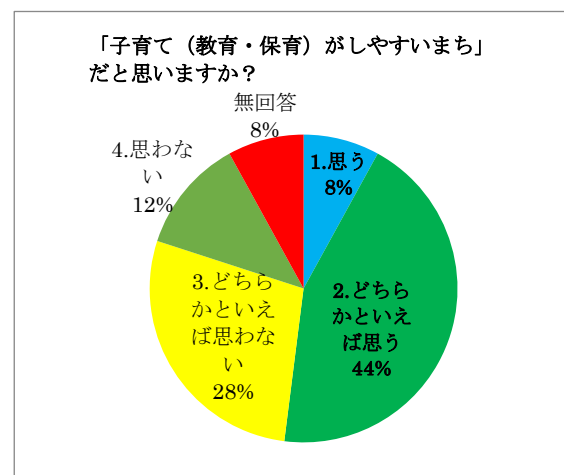
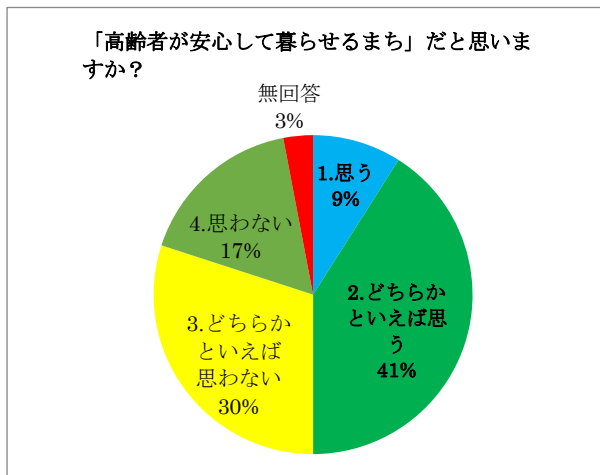
## ■人（人の意識，交流，広報，PR）



◇三大事業については、10代では45%、70代52.3%と感心が高く、20～50代では関心が低いという回答でした。働き方改革と並行して就労者層のまちづくり事業・活動への参加にひと工夫必要と考えます。

◇通信機器を使った情報の発信方法については、年代を問わずスマートフォン、パソコンでの情報提供が望まれていることから通信機器を使った発信方法を検討していきたいと考えています。

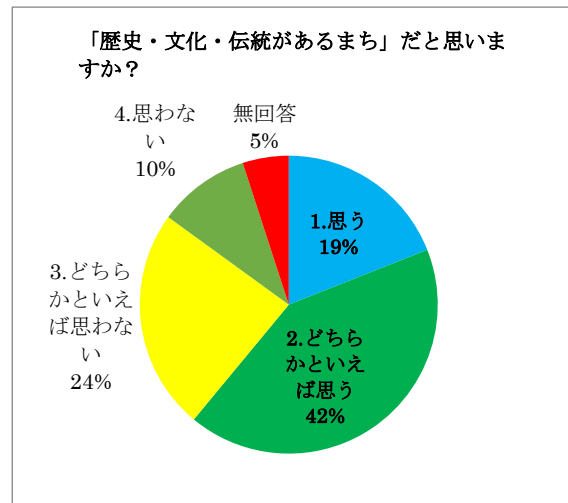
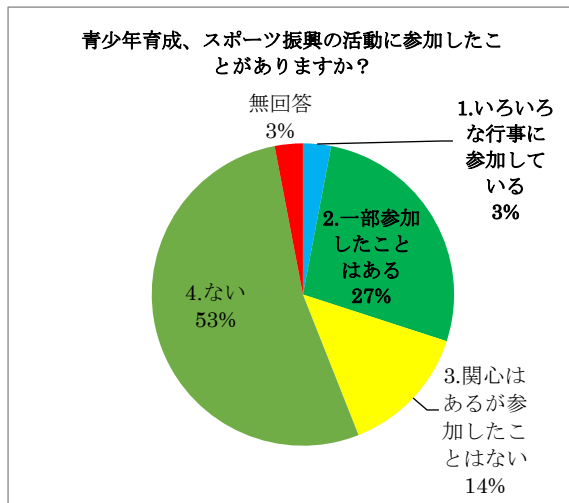
## ■福祉（高齢者福祉，子どもの福祉，障がい者福祉）



◇地域で高齢者が安心して暮らせるまち，子育てがしやすいまちだと思っている人の割合は，やや満足となっています。これは、市全体と同じ位です。

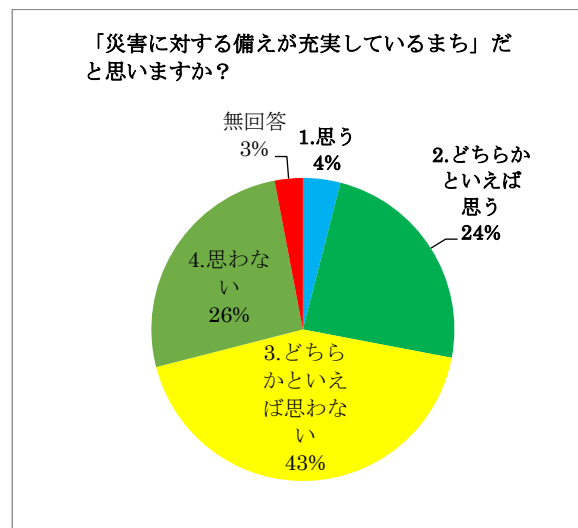
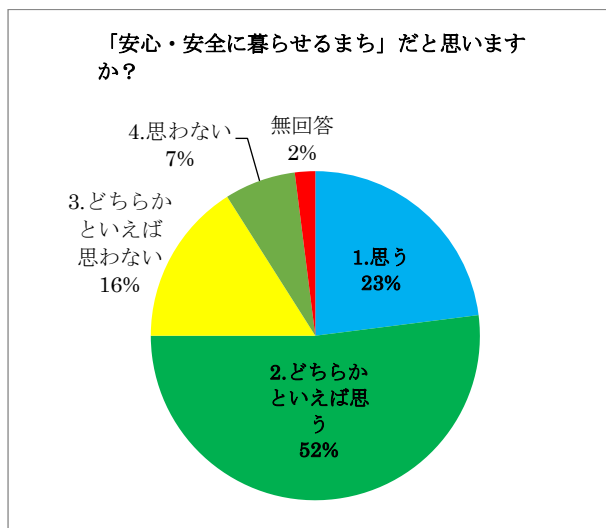
安心して生活できる環境づくりを地域でも考えていく必要があります。

## ■教育（子どもの健全育成，教育，文化・歴史，スポーツ）



- ◇スポーツ、文化行事等への参加は、参加率が30%程度と低い実態にあります。関心のある方の参加しやすい条件づくり、参加できない理由を把握した改善策が必要と考えます。
- ◇大黒屋光太夫の偉業、関連史跡や獅子舞等の伝統文化の継承を通じながら、郷土愛を育み地域住民が支えあえる地域づくりにつなげることが求められています。

## ■防災（防犯，交通安全，環境）



◇二つの回答結果を分析すると、過去の災害（地震・台風など）の記憶が薄れ、長い間、自らの地域への直接被害が無い状況下にあるので、安全・安心に暮らせるまちと認識しているように思われます。

災害に対する備えについては、否定的な回答が大半を占めている実態です。意識の改革と具体的な減災・防災の諸対策を講じていくことが求められています。

## ■主な意見、提案（自由記述から抜粋）

多くのご意見、ご提言を頂きました。その内容を分類すると大綱次の通りです。

- ① 地域づくり協議会が主体的に対応できる事項
  - 若松の歴史や伝統文化を継承するための体制と人材の育成
  - 子供が楽しめる行事の企画、実施
  - 高齢者が集える行事やサークル活動の企画、実施
  - 町内行事（盆踊り・神輿祭りなど）と若松地区全体行事の見直しと統合
  - まちの美化活動（ゴミのない綺麗なまちづくり）
  - 若松のまちの紹介、行事の案内などが閲覧できるネット媒体の開設
  - まちづくりに係る役員の育成
  
- ② 行政が主体的に対応する事項
  - 道路の整備
  - 海・河川堤防の補強
  
- ③ 地域と行政の協働で取り組む事項
  - 子供が楽しく遊べる場所（公園、風光明媚な景観）の確保
  - 空き家の管理と再活用
  - 防犯カメラの設置
  - 避難場所の確保と周知徹底
  
- ④ 行政と民間、住民の共創の事項
  - 津波避難場所の確保
  - 生活インフラに関する内容（交通・医療・公園・商業施設）
  - 地域が一体となった防災訓練

◇住民の皆さまから記述された意見、要望、助言は多種多様な内容でした。半分ぐらいは、地域づくり協議会の活動を通じて対応できるものと考えます。

但し、役員だけでやれるものではなく住民一人一人の理解と協力なくして成し得ません。

残り半分は、行政（国・県・市）と民間・住民の協働、共創で取り組むべき内容と考えます。



### (3) 子どもの意見（子どもアンケート）

#### ■実施方法

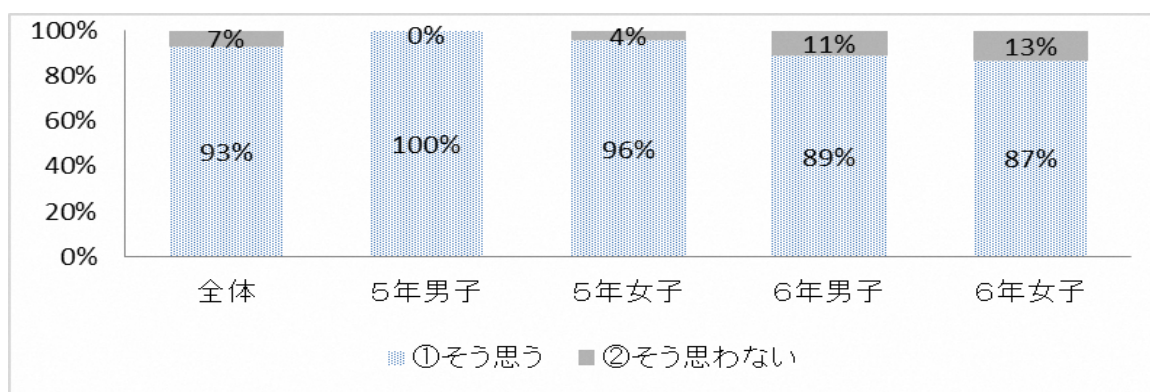
対 象 若松小学校児童5、6年生120名（授業の中で記入）

実施時期 2018年9月

配布、回収数 120枚

具体的アンケート内容と主な回答、意見。

#### 1、若松の地域が好きですか？

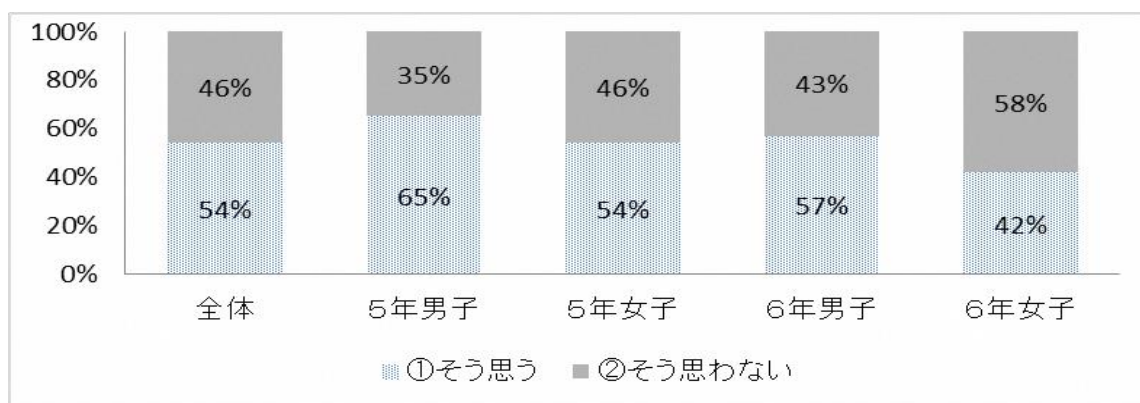


##### ①思う・②思わないの主な声

① 生まれ育った所で、自然と色々な行事があるから。光太夫の歴史があるから。

② 地震、津波がくるかもしれないから。近所のおばさんがこわいから。コンビニが無いから。

#### 2、将来も若松に住みたいと思いますか？



##### ①思う・②思わないの主な声

① いろんな人に支えられ、将来恩返しをし、いろんな人を助けたいから。

育った所、人が優しいから。親の近くがいい。困ったときに助けてもらえる。子どもが生まれたら、若松小へ通わせたいから。

- ② 地震、津波がこわいから。いなかだから。都会へ出たい。色んな所を知りたい。仕事のため。

### 3、若松の地域の良いところ、直したらよいところを教えてください。

(良いところの主な声)

- 地域の人が見守ってくれている(登下校、青パト)
- 地域の行事を楽しめる。 • 行事が多い。

(直したらよいところの主な声)

- 公園と遊具を増やして欲しい。
- ポイ捨てを無くして欲しい。
- ゴミ、犬のフン等が落ちている。

### 4、若松がどのような地域になってほしいですか？若松をさらに住みやす

く良い町にするためには、どんなことをしたらいいですか？

#### ■課題(主な意見を分類)

- ①まちづくり、あいさつ
- ②ゴミ、地域環境
- ③遊べる公園
- ④お店
- ⑤祭り、行事



#### ■意見、提案

- ①ゴミの無い、きれいな、明るい町に。  
みんなが笑顔であいさつする、元気で賑やかな町に。
- ②みんなでゴミをひろう、清掃活動をしては。  
普段からゴミを見つけたらひろう。ゴミを落とさない。
- ③空き家を壊す。不審者が居そうな場所を無くす。
  - ④公園と遊具がたくさんある町に。
  - ⑤コンビニやお店のある町に。
  - ⑥まつり、イベントを増やして欲しい。  
気軽に参加出来る行事を増やして欲しい。



## ■子どもアンケートから見えるこれからの若松

### 「若松っ子、キッズプラン」宣言

アンケート結果を分析すると、9割以上が「地域の行事に参加している」、そして「地域が好きである」。又、地域行事へのスタッフとしての参加は2割程であるが、8割が「今後スタッフとして参加したい」。定住意向は、5割が「将来も住みたいと思う」との回答がありました。若松を如何に思っているか、どの様な地域になって欲しい、どんな事をしたら良いかは、貴重な意見でした。

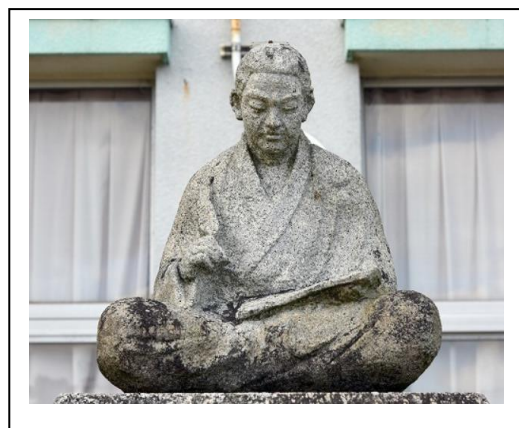
これらの意見、提案を纏めると「挨拶」、「お店」、「遊べる公園」、「ゴミ」が子ども達の中から見た、今後の地域づくりのキーワード、指針になると思われます。

子ども達の意見が取り組みに反映されれば、地域への参画意識も芽生え、これからも地域に住み続け、地域の将来を担ってもらえる様な地域をつくっていく事が必要と思われます。そこで、子供達の総意を「若松っ子、キッズプラン」宣言としてまとめました。

### 「若松っ子、キッズプラン」宣言

ぼくたち、わたくしたちは、郷土のいじん、大黒屋光太夫さんの行ないを学び、その強さ、たくましさ、元気、リーダーシップをじっせんし、そしてそのこうせきを受け継ぎ、広く世の中に伝えて行きます。

そして、生まれ育った若松で学んだ事をいかし、若松の未来を次のようにする為、わたくしたちにできることを自分で考え、活動、お手伝いしたいと思います。



校庭内に建つ光太夫座堂

### ＝若松地区をこんな地域にしたいと考え、行動します＝

- ①「元気よくあいさつをします。」そして、あいさつと笑顔のある、明るく元気で豊かな若松にします。
- ②「ゴミはすてない、ひろいます。」そして、ポイすて、ゴミの無いきれいな若松にします。
- ③将来も住み続けたいと思える、すてきな良い若松にするよう、「子ども達はどこへ行ってもお客様」ではなく、地域の一員として、お父さん、お母さん、地域のひとたちと一緒に考え、活動します。  
そのために、地域行事にはせっきょく的に参加し、地域を元気に盛り上げます。

## (4) 地域の宝物（長所）と課題（短所）

### 1. わがまちの宝物

- ◇開国曙光の人「大黒屋光太夫」が生まれ育ったまち  
大黒屋光太夫記念館，記念碑，関連する史跡が多数存在する
- ◇学校と地域組織との協業体制が確立  
光太夫太鼓，田植え・芋の苗付け等の支援，絵画コンクール  
参画，ミュージカル公演
- ◇伝統文化・祭りなどを地域ごとに継承  
濱田・禰宜垣内の獅子舞，百万遍（大数珠回し），盆踊り等
- ◇歴史，文化に対する住民の関心意識が高い（住民アンケートによる）
- ◇風光明媚な環境  
千代崎海水浴場，千代崎緑地公園，若松漁港，田園風景
- ◇若松海岸美化活動（20年以上継続）
- ◇青色回転灯パトロール隊，登下校の見守り活動



＝開国曙光碑＝



- ◇学校と地域組織の連携，協業が確立  
避難訓練，クリーンスクール，読み  
聞かせ，出前講座，見守り隊感謝祭
- ◇若松小学校区連絡網  
（ネットワーク）の確立

### 2. わがまちの課題

#### 【総務部】

- ① 事業継承者の担い手不足
- ② 役員・スタッフの高齢化
- ③ 事業のマンネリ化
- ④ 情報の発信、PRの不足



### 【文化広報部】

- ① 歴史・伝統文化の継承者不足
- ② 伝統文化の継承が既存組織で難しくなっている
- ③ 公民館サークル活動などの参加者が増えない
- ④ 情報の発信が組織・系統的にできていない



＝若松小3年生レコーダーと歌の演奏＝

### 【青少年育成部】

- ① 学力・体力向上
- ② 住民との関係が希薄化
- ③ 各種行事への参加人員の減少
- ④ 行事のマナー化

### 【生活環境部】

- ① ゴミ・ふんが落ちている
- ② 通学路の安全が確保されていない
- ③ 津波避難場所がない
- ④ 弱者（身体しょうがい者・高齢者）の移動が不便

### 【地域安全部】

- ① 通路の整備が不備、交通安全に不安がある
- ② 防災対策不備
- ③ 防犯対策が充実していない

### 【健康福祉部】

- ① 高齢者、子育て世代が触れ合う場がない
- ② 高齢者の移動が不便
- ③ 災害時の避難対策が不十分



### 【スポーツ振興部】

- ① 参加者が少ない
- ② 既存事業のマナー化
- ③ 指導者不足
- ④ いろいろな年齢層で楽しめる



## 2. 地域づくりの基本目標（スローガン）



大黒屋光大夫の偉業を受け継ぎ、明るく連帯感のある、  
豊かで住みよい、永く住み続けられるまちづくり。

## 3. まちづくりの基本方針と取り組み



### (1) 基本方針（目指すべき若松地区の将来像）

#### ◇総務部の目標◇

人の繋がりを大事に継続的・生き生きした若松地域づくり協議会にする

#### ◇文化広報部の目標◇

歴史・文化・景観を活かして若松愛を育む

#### ◇生活環境部の目標◇

人と人との繋がりにより清潔な安全安心の生活環境の改善を継続的に行う。

#### ◇地域安全部の目標◇

人の繋がりを第一に、気軽に声掛けができる安心・安全な地域社会を目指す。

#### ◇健康福祉部の目標◇

誰もが安心して永く住み続けられるまちづくりを目指す

#### ◇青少年育成部の目標◇

青少年の健全育成・行事を通して地域住民の親睦、交流を図る

#### ◇スポーツ振興部の目標◇

地域住民がスポーツに親しみ健康で明るい社会生活を営む  
各種スポーツイベントの実施、スポーツを通じて住民同士の交流の推進。

### (2) 事業計画（2020年～2023年）

別冊：2020年～2023年若松地区地域計画書参照

### (3) 地域計画策定に至る主な経緯



#### 【平成30年】

- 8月 若松小学校区自治会に対し住民アンケート調査実施
- 9月 若松小学校5年・6年児童に対しアンケートを実施
- 10月 条例，地域計画策定について役員会で説明を受ける
- 12月 部会別討議の流れ，策定にかかるスケジュール等を役員会で説明

#### 【平成31年】

- 1月 部会別地域計画策定の手順書，分析シートを説明。  
手順書に従い，分析シートの項目（部会の目標，地域の宝物，課題，課題に対する解決策）を各部会討議を重ねる
- 3月 広報誌「かけはし」No.7にアンケート結果（概要）を掲載

#### 【令和元年】

- 7月 ワークショップ①の開催
- 8月 ワークショップ②の開催
- 11月 部会間の事業計画の調整（補強・補完）
- 12月 地域計画策定シート，最終スケジュール，  
地域計画書に盛り込む内容，役員会で検討する



#### 【令和2年】

- 1月 地域計画書（案）役員会で提案（説明）補強
- 2月 各部会で計画（案）内容を討議 部会間の調整
- 3月 役員会で地域計画書を協議
- 4月 令和2年度総会で地域計画書を提案、審議（承認を得て決定）

## 地域計画策定委員

役職	氏名	所属団体名
会長	原田 一男	自治会長会
副会長	原田 吉次	自治会長会
副会長	長谷川 彦英	若松公民館運営委員会
専門部長	西城 薫	大黒屋光太夫顕彰会
専門部長	紺谷 隆	民生委員児童委員
専門部長	小林 茂夫	自治会長会
専門部長	西城 彰男	民生委員児童委員
専門部長	山中 泰成	スポーツ推進委員
専門部長	間崎 孝至	青少年育成町民会議
委員	井上 斗	自治会長会
委員	浦川 雅弘	自治会長会
委員	樋口比呂磨	若松 Jr ふれあいクラブ
委員	磯部 敬	老人会
委員	金武 勇	自治会長会
委員	中川 久子	自治会長会
委員	的場 つや子	民生委員児童委員
委員	加藤 加奈子	若松小学校 PTA
コーディネーター	富田 秀彦	鈴鹿市 若松地区市民センター長
市支援職員	今村 隆之	鈴鹿市
市支援職員	川村 裕之	鈴鹿市
市地域協働課	早川 力	鈴鹿市

事務局

鈴鹿市若松中二丁目3番8号

若松公民館内

若松地域づくり協議会

連絡先 059-385-0200